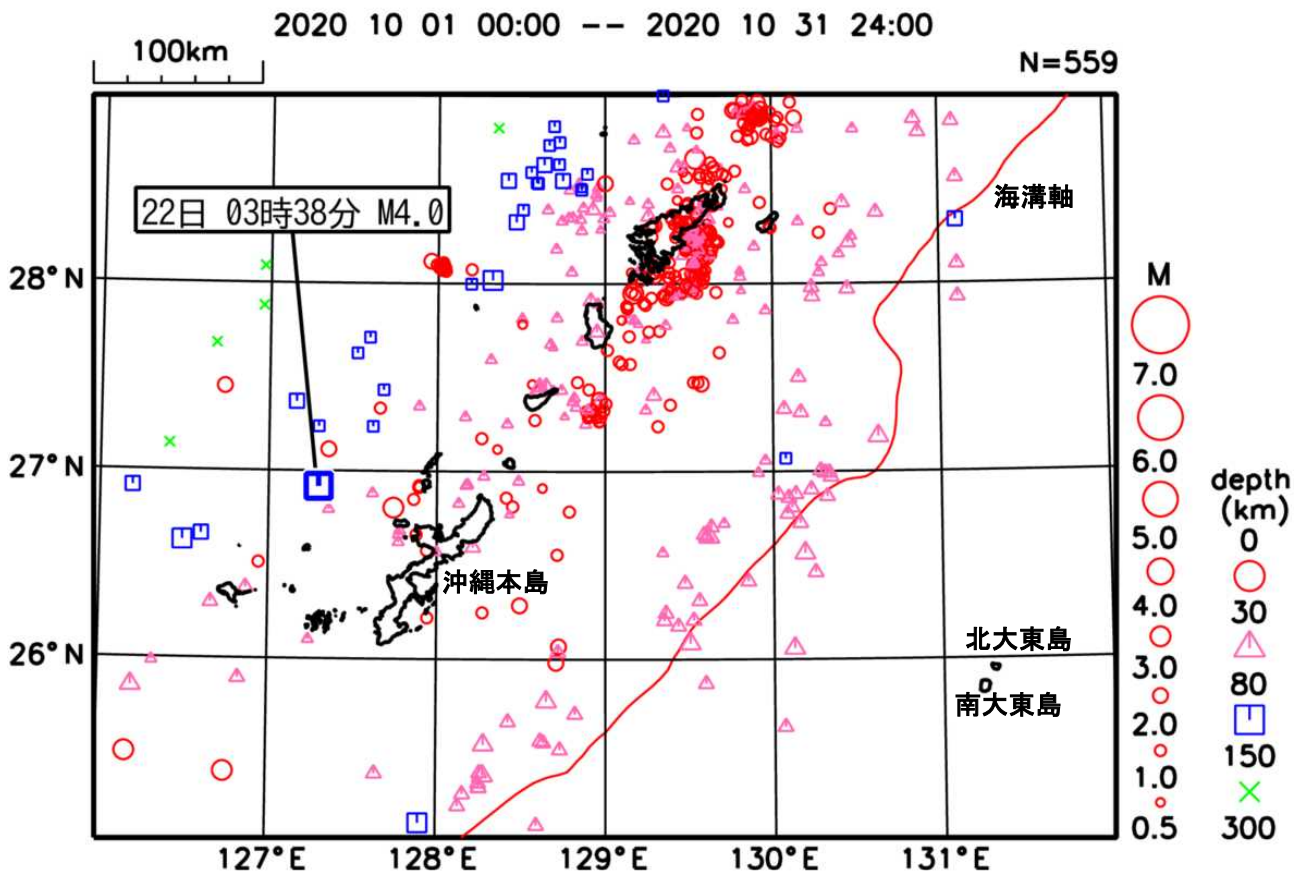


大東島地方の地震活動

2020年10月

南大東島地方気象台

震央分布図



図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

沖縄県内で震度1以上を観測した場合は、吹き出しで示しています。

[概 況]

今期間に、大東島地方で震度1以上を観測した地震はありませんでした（9月もなし）。なお、沖縄本島地方では1回観測しました（9月は3回）。

また、大東島地方周辺（上図の範囲）で観測した地震は559回（9月は539回）で、このうちM4.0以上の地震は1回（9月は2回）でした。

※沖縄地方（沖縄県）の地震については、沖縄気象台作成の「沖縄地方の地震活動」をご覧ください。

URL：<https://www.jma-net.go.jp/okinawa/data/jishin/month.html>

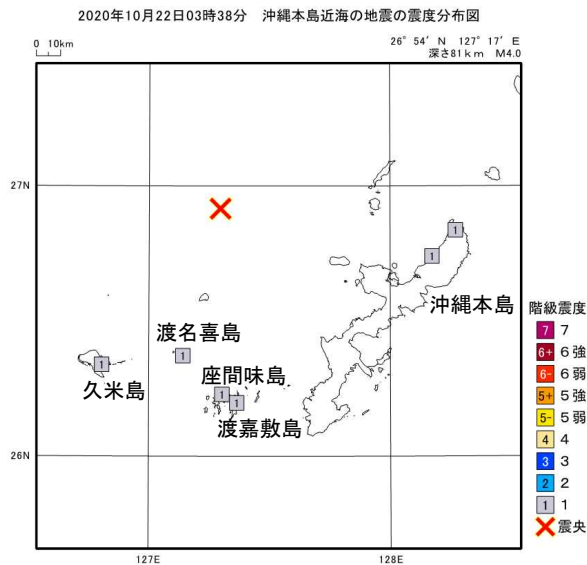
大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の表（期間：2020年10月1日～31日）

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2020年10月22日03時38分	沖縄本島近海	26° 54.9' N	127° 17.7' E	81km	M4.0
沖縄県 震度1：国頭村奥, 国頭村辺土名*, 渡嘉敷村渡嘉敷*, 座間味村座間味*, 渡名喜村渡名喜* 久米島町謝名堂					

*の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

※大東島地方及び沖縄本島地方以外に震度が観測された場合は、その震度も記載します。

大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の震度分布図



※資料中のデータについて

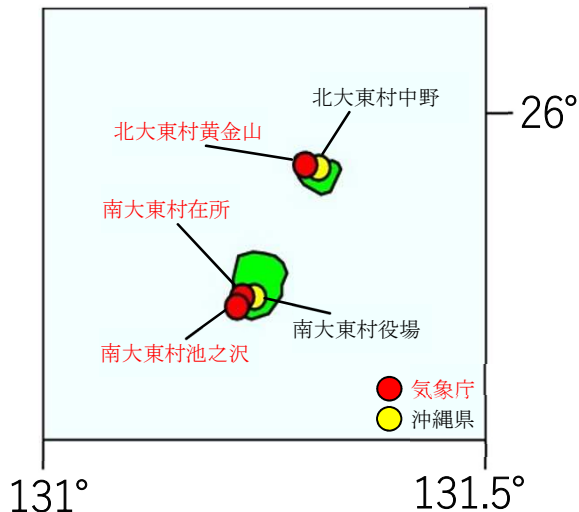
この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※概況中の震源の深さについて

震源の深さは、精度がやや劣るものは表記しないことがあります。

※データについては精査により、後日修正することがあります。

大東島地方の震度観測点



気象庁 南大東島地方気象台
 Japan Meteorological Agency Minamidaitoujima Local Meteorological Office

本件に関するお問い合わせ先

電話：09802-2-2006

ホームページ：<https://www.jma-net.go.jp/daitou/>

津波から身を守るために！

～沖縄でも津波災害が発生しています～

沖縄で起こった津波の被害

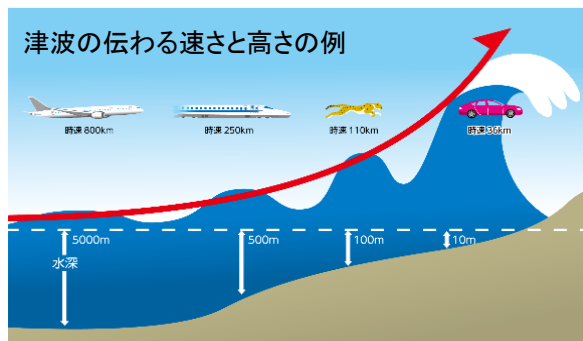
私たちの住む沖縄地方は、過去に津波の被害を受けています。
 1771年（明和8年）4月24日に発生した石垣島近海の地震により大きな津波が発生（明和の大津波）し、約1万2千人が犠牲となりました※。
 また、海外で発生した地震による津波では、1960年（昭和35年）5月23日にチリ中部沿岸付近のマグニチュード9.5の地震により発生した津波（チリ地震津波）は、約1日かけて日本に到達しました。この津波により、全国で死者・行方不明者142人（沖縄県内では死者3人、行方不明者0人、負傷者2人）、住宅の全壊や橋の損壊など大きな被害がありました※。
 ※ 被害は「日本被害地震総覧」より

津波の特徴を知り、津波の危険から身を守りましょう

・津波の伝わる速さと高さ

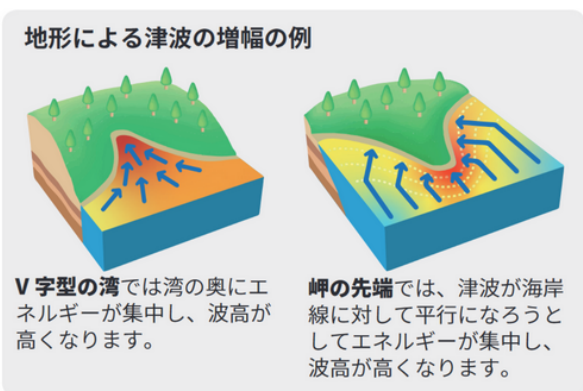
津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合いではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくとつれ、減速した波の前方部に後方部が追いつくことで、波高が高くなります。

水深が浅いところで遅くなるといっても、人が走って逃げ切れるものではありません。津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合わないのです。海岸付近で地震の揺れを感じたり、津波警報を見聞きしたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難しましょう。



・地形による津波の増幅

津波の高さは海岸付近の地形によって大きく変化します。さらに、津波が陸地を駆け上がる（遡上する）こともあります。岬の先端やV字型の湾の奥などの特殊な地形の場所では、波が集中するので、特に注意が必要です。津波は反射を繰り返すことで何回も押し寄せたり、複数の波が重なって著しく高い波となることもあります。このため、最初の波が一番大きいとは限らず、後で来襲する津波のほうが高くなることもあります。



・0.3mの津波でも危険

津波は海底から海面までの海水全体が動くエネルギーの大きな波であり、風が吹くことによって海面付近の海水が動く現象である「波浪」と大きく異なります。

津波が高くなってくると、それにつれて海水全体の動きも大きくなります。高さ0.2～0.3m程度の津波でも人は速い流れに巻き込まれてしまうおそれがあり大変危険です。

気象庁は0.2m以上の津波が予想された場合は津波注意報を発表します。津波注意報が発表されたら海から上がって速やかに海岸から離れてください。



地震・火山に関する情報は
 沖縄气象台ホームページまで
<https://www.jma-net.go.jp/okinawa/data/jishin/month.html>

沖縄气象台

検索

